



コロナおよびクーデター禍でのミャンマー赴任を終えて

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 運営企画部 保健医療開発課

国際協力機構（JICA）ミャンマー保健スポーツ省感染症対策アドバイザー 宮野 真輔

ミャンマーは日本の約1.8倍の面積を持ち、5つの国（インド、中国、タイ、ラオス、バングラディシュ）と国境を接し、約5000万人の人口を持つ東南アジアの大国のひとつです。多民族国家であるがゆえの民族間の争い、周辺国との政治関係、軍による政権やクーデターなどに翻弄される中で保健医療は脆弱で課題も多いこともあり、国立国際医療研究センター国際医療協力局は2000年代から国際協力機構（JICA）を通して感染症対策や保健医療人材の育成のためにミャンマーへスタッフを派遣してきました。私は、2019年8月からの2年間、感染症対策アドバイザーとしてミャンマー保健スポーツ省に派遣されていました。肩書の通りミャンマーの感染症対策を支援するため、日本の国立感染症研究所にあたる国立保健衛生研究所にオフィスを構えました。赴任当初はミャンマー側から支援要請があった抗菌薬の効かない細菌（薬剤耐性菌）の対策支援

をしていましたが、ご存知の通り、2020年明けですぐに新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まったので、最終的に現地での仕事の7割以上はこの支援に力を注ぐことになりました。

新型コロナウイルス感染症の検査診断がミャンマー国内でできない

中国・武漢で原因不明の肺炎が起きているらしいことがニュースで取り沙汰され、それが動物由来の新型コロナウイルスが原因で、ヒトからヒトへ感染をするとわかってきたのが2020年1月末。その時点では、いままでにない全く新しくウイルスをミャンマーでは検査診断できない状況で、タイへ検体を送らなければいけませんでした。一方で発熱や咳など新型コロナウイルス感染症を疑わせるケースは日々増えてきていたので、これはきちんとミャンマー国内で検査診断できる環境を整備しておかない



ラボのスタッフ達とデータを見ながら対策を協議



国立衛生研究所（NHL）の同僚達と

とやばくなるぞと感じたのが2月上旬頃で、日本の関係機関からの協力も得て、勤務している国立保健衛生研究所に診断検査をできる環境を1週間という急ピッチで整備し、2月20日から国内での診断検査を開始することができました。その後、3月23日にミャンマーで第1例が診断され、なんとか診断検査体制の基盤整備ができたのでホッとしました。ただそのころには医師や看護師が感染した患者さんと接することで感染してしまうことが他の国々で問題になってきていて、ミャンマーではただでさえ医師や看護師の数が足りないのに、感染予防の知識が十分でない医師や看護師以外の保健医療従事者が対応しなくてはならないことも多いので、十分に起きうる問題でこれもやばいぞと感じました。特に地方部で働く保健医療従事者達は感染予防のトレーニングを受ける機会がほとんどなく、一般的に使われる英語の教材では理解が不十分となるリスクが予測されたので、「検査や診療の際に必要な防護服をどのように着て、脱げばよいか」、「どのように安全に検査をし、検査検体をどのように安全にパッキングして国立保健衛生研究所まで運べばよいか」について、国立保健衛生研究所のスタッフに出演、ナレーションをしてもらう形でミャンマー語の動画をつくり、保健スポーツ省のホームページ、YouTube、Facebookで一斉配信し、さらに全国の保健医療施設へメモリースティックでの郵送をして多くの保健医療従事者へ届くように手配しました。保健大臣からは感謝状をいただくとともに、YouTubeやFacebookで多くのシェア、いいね！をもらったの

は良い励みとなりました。

抗菌薬は風邪薬だしウィルスにも効果あり！？

感染症は細菌などの病原体がヒトに感染し起こされる病気なので、それを早期に検査診断し、抗菌薬で治療することで、感染の拡大を防いだり、多くの命を救うことができます。

ただ最近世界中で深刻化しつつある病原体に抗菌薬が効かなくなるという問題（薬剤耐性）がミャンマーでもあるのは間違いありませんが対策が全く取られていないのも現状です。不適切な抗菌薬を不適切に服用することで、それが効かなくなるさまざまな病原体が増えていき、それに感染すると本来ならば治療に使えるはずの抗菌薬が効かなくなるので、簡単に命を落としてしまうという大変危険でやっかいな問題です。そこでまずはミャンマー国民の抗菌薬に関する理解度や知識、行動を正確に把握してより効果的な対策を促進するための全国意識調査（一般市民2,045人対象）を行ってみました。すると、約7割の人々が抗菌薬に対する間違った理解、間違った方法での服用をしており、約6割の人々が保健従事者による処方箋をもたず薬局やマーケットで思いのままに抗菌薬に入手していることがわかり、ミャンマーで薬剤耐性が危機的課題になるのは時間の問題だと感じました。次に全国約30ヶ所にある国立衛生検査機関でおこなわれている細菌検査の結果を調べてみると、すでに複数の抗菌薬が効かなくなった病原体も多く見つかりました。新たな薬剤耐性の病原体を増やさないと、さらにすでにみつかって



新型コロナウイルス対策支援に対する感謝状を保健スポーツ省から



新型コロナウイルス支援に対する保健スポーツ省からの感謝状を授与される

いる薬剤耐性の病原体を拡げないために、どのような病原体がどの抗菌薬に効果がなくなっているかをきちんと検査診断、モニタリングできる体制（サーベイランスシステム）を整備し、その情報をもとに人々が適切な抗菌薬を適切に使用できるようにするための啓発動画や情報レポートを発行して、ミャンマー保健スポーツ省と対策を進めました。

そして軍事クーデター…

新型コロナウイルス感染症対策支援がうまく進められ、2021年1月27日からは保健医療従事者に対する全国ワクチン接種も他の東南アジア周辺国よりいち早く開始でき、改めてミャンマー人の団結や誠実さに感心させられ、もっと彼らを支援するために頑張らなければと思いながら週末を過ごした後の2月1日月曜日。早朝におきたという軍事クーデターの電話連絡で目覚めたのは今でも鮮明に覚えていま

す。この日以来、状況は一変しました。軍へ抵抗するためのデモ活動が展開され、それを国軍は銃や爆弾で制圧しようとし、夜間には銃撃の音で目覚める日もありました。私の同僚を含む国家公務員達は軍への抵抗として業務ボイコットや辞職をし、全国の保健医療サービス体制は機能不全に陥ってしまっており、特に相手国政府の支援をするような我々は、正当な政府がないという状況のなかで、支援方策が限られており、大変困難な状況に陥ったまま、私の派遣期間は終了してしまいました。歴史に翻弄されることが多いですが、それらを乗り越えてきている現地の同僚や友人達は強く優しく真面目で、彼らから励まされたり助けられたりすることが多かったなあと改めて振り返っています。より困難な中にいる彼らを日本から支援、応援し続けられればと思っています。

